

■ 蛇とカエル

カエルは先に飛ぶと蛇に進路を読まれてしまい、捕まる事分かっています。また蛇は体が伸びきった状態では進路を変えることができなくなり、そしてチャンスは一回しかありません。つまり先に動いた方が負けるということになります。人間も同じで何か起こると慌てます。ですが冷静になりその時どう動かを考えなければなりません。私達は学ぶ必要があります。

■ 自分の死期を悟っていたペテロ

・それは、私たちの主イエス・キリストも、私にはっきりお示しになったとおり、私がこの幕屋を脱ぎ捨てるのが間近に迫っているのを知っているからです。(第2ペテロ 1:14)

・イエスは再び彼に言われた。「ヨハネの子シモン。あなたはわたしを愛しますか。」ペテロはイエスに言った。「はい。主よ。私があなただを愛することは、あなたがご存じです。」イエスは彼に言われた。「わたしの羊を牧しなさい。」イエスは三度ペテロに言われた。「ヨハネの子シモン。あなたはわたしを愛しますか。」ペテロは、イエスが三度「あなたはわたしを愛しますか」と言われたので、心を痛めてイエスに言った。「主よ。あなたはいつかのことをご存じです。あなたは、私があなただを愛することを知っておいでになります。」イエスは彼に言われた。「わたしの羊を飼いなさい。まことに、まことに、あなたに告げます。あなたは若かった時には、自分で帯を締めて、自分の歩きたい所を歩きました。しかし年をとると、あなたは自分の手を伸ばし、ほかの人があなたに帯をさせて、あなたの行きたくない所に連れて行きます。」(ヨハネ 21:16~18)

ペテロはこの言葉から死期を悟っていました。ペテロはもうこれ以上、伝えられなくなる。自分が死んでもいつでもその言葉を私たちが思い出せるように手紙にしたのです。

■ 自制を持つ～私達を壊す2つの欲～

悪魔は私たちの人生を陥れる地雷をたくさん仕掛けています。どうやれば地雷を踏み大切なものを失わせることが出来るかよく知っています。私達は2つの「欲」について知らなければなりません。それは、「逃たい」という欲と「知らなくても良いことを知りたい」という欲です。これが人生を狂わす私達の本能です。相手が自分をどう思っているのか探ろうとするのではなく、私達はその人とうしたいかが大事になります。欲は何度でも押し寄せて来ます。そして最大の罪は「自分を守ろうとする(正当化するために)人のせいにする欲」です。だからこそ、私達は人を裁き相手を嫌いになることで、問題から逃げようとしてます。だから騙されなくて私達はあの人を嫌いだとか、この人と付き合いたくない、もうこの人は信じない、本当にそれで良いのでしょうか。本当はその人があなたの人生でかけがえのない人で失ってはいけない人なのです。また、自分で勝手に諦めて止めてしまっている事はないでしょうか？人が自分のことをどう思っているか？人の評価に惑わされてはいないでしょうか？人に目を向けるのではなく、そのような時にこそ、神様の視線に目を向けましょう。神の愛は見ようとしなければ見えません。目を閉じて静まり「愛されていること」を受け取っていきましょう。

神はいのちと敬虔に関するすべてのことを私たちに与えます。と約束されています。聞くだけではなく行う者にならなければなりません。そうするとこの世がもたらす欲がもたらす滅びを免れ、神のご性質にあずかる者となります。キリストがどのように十字架に向かったかどのように生まれてどのように死んだかその生き様(神に従おうと敬虔に生きようとする姿)を学ぶ事、これが徳を高めるといことです。自信が覆されたのなら、神様が神の方式で、あなたの道を整えようとされているチャンスを喜んで受け取りましょう。例え何がなくなっても生き方の基本である聖書があれば大丈夫だと思える信仰をもちましょう。人生はやり直すことはできないが、学ぶことができます。どれだけ知識があっても自制する心をもたなければ乗り越

えることは出来ません。我慢ではなくてその後と与えられる恵みを知っているからこそ忍耐を選び、その場所がいやだから逃げるのではなく、良くして次に進みます。忍耐した私達は最期まで従う決断をしましょう。それが「敬虔」です

■ 私たちに与えられた約束

「良い地に蒔かれたものとは、みことばを聞いて受け入れ、30倍、60倍、100倍の実を結ぶ人たちのことです。」(マルコの福音書 4:20)

私達は用意された御国の恵みがあり、どんな苦しい状況であっても祝福を受け必ず実を結び、栄光と徳によってお召しになったイエスを知ることで、いのちと敬虔に関するすべてのこと、尊い、すばらしい約束が与えられます。だからこそ、近視眼になってはいけません。私たちの過去には生きることを失うような出来事があったかもしれません。そこに蓋をして思い出さないように生きてるかもしれません。しかし、聖書はそれを昔から予言しています。あなたにはもうすでに恵みは十分である「タリタクミ」立って歩みもう人のせいにするのを止めて自分を守るために人に指をさすのをやめなければなりません。私たちの目の前にある問題を解決するために、愛ではない間違った方向に進んで行くこの世界を私たちが回復させる為にここにいるのです。私たちが変わるために必要なのは決意だけです。聞く耳のある者は聞きなさい是非今神様の言葉を聞いて行う者になりたいと心から願いましょう。

最後に…

1:11『このようにあなたがたは、私たちの主であり救い主であるイエス・キリストの永遠の御国に入る恵みを豊かに加えられるのです。1:12 ですから、すでにこれらのことを知っており、現に持っている真理に堅く立っているあなたがたであるとはいえ、私はいつもこれらのことを、あなたがたに思い起こさせようとするのです。』

ペテロは命がけてこの手紙を残しました。彼は、決して格好の良い言葉、聞きやすい言葉を残そうとしたのではありません。自分の人生そのものを記録に残したのです。そして、聖書自体も生き様の書であると言っても過言ではありません。

世の終わりが近づきました私たちに働いた恵はもう十分なのです。あなたはそれを行えば必ずこの地において大収穫を見るでしょう。頑なにならない、聞かないと言わない、従えないと言わないで今、決意して諦めてしまう人生を辞める決断をしていきましょう。

【私達が隣人に…】

◎日野原重明(ひのはら しげあき)氏が残した言葉を紹介します。

自分の命がなくなるということは、

自分の命を他の人の命の中に

残していくことである。

自分に与えられた命を、

より大きな命の中に

溶け込ませるために生きていくことこそ

私たちが生きる究極の目的であり、

永遠の命につながるのだと思う。

ペテロが命がけて生き様を残したように、次は私達が隣人に生き様を残していく番です。私達は塩です。しかし塩のままではなく、その性質を変えることなく溶け込むことが大切です。

あなたは今、溶けなければなりません。頑なに思いを脱ぎ捨てて、神様の元に戻りましょう。